

門真市版 授業づくりベーシック

～子どもたちに確かな学力を付けるために～

門真市教育委員会は、平成25年度に「門真市版授業スタンダード」を作成し、各校でもそれを踏まえた授業づくりが行われてきました。その結果、子どもたちが主体的に課題に向き合い、学び合う姿勢も見られましたが、反面「どのような学力をつけるのか」が個人任せになったり、曖昧なまま、「スタンダード」の形式だけが踏襲されるという課題が見られました。

そこで、新学習指導要領の実施に向け、「どのような学力をつけるために授業を行うのか」ということについて共通認識をもつために、新たに「授業づくりベーシック」を提起することにしました。

1、「どのような学力をつけるか」は決まっている

各教科でつける「学力」は授業者が主観的に決めるのではなく、「全国標準」に基づいて設定されなくてはなりません。それが「**学習指導要領**」です。

これによって全国的な学力水準が保てます。各教科において、どの学年の、どの単元で、そしてどのような力をつけるのかは学習指導要領に定められています。



①どのように定められているか？（小学校国語科を例に）

→「教師用指導書」のはじめに「**指導事項配列表**」があり、それに全ての教材の「**指導事項**」と「**言語活動例**」が一覧表で載っています。（必ず参照しましょう）

《3年生国語「読領域」の例》

指導事項の「**内容の中心や場面の様子がよくわかるように音読すること**」（学習指導要領）

⇒これが指導目標なのが「**どきん**」と「**きつつきの商売**」です。（◎がついています）

つまり、この2教材を指導するときには、**ウ**の力をつけることをねらいにします。**ウ**が主目標なのです。

教材名	C読むこと									
	指導事項					言語活動例				
	ア 段落相互の 関係に着目し ながら、考 えとそれを支 える理由や 事例との関 係などにつ いて、叙述 を基に捉え ること	イ 目的に応じ て、中心と なる語や文を とらえて段 落相互の関 係や事実と 意見との関 係を考え、 文章を読む こと	ウ 場面の移り 変わりに注 意しながら 、登場人物 の性格や気 持ちの変化 、情景など について、 叙述を基に 想像して読 むこと	カ	エ	ア 物語や詩を 読み、感想 を述べ合う こと	イ 記録や報告 の文章、図 鑑や事典な どを読み、 利用するこ と	ウ 記録や報告 の文章を読 んでまとめた ものを読み 合うこと	エ 紹介したい 本を取り上 げて説明する こと	エ
どきん	◎									
きつつきの商売	◎		○							

(◎は「主たる目標」 ○は「主目標に準じる目標」)

②教科書ではどこに書かれているか？（「きつつきの商売」を例に）

- ・**単元名**「場面の様子を思いうかべ、音読しよう」
- ・**リード文**「登場人物のしたことや言ったことなどから場面の様子を思いうかべ音読しましょう」
- ・教師用指導書には、「**指導目標**」として、「**場面の様子や違いに注意しながら音読を工夫し、発表することができる**」と書かれています。

→つまり「**単元名**」「**リード文**」「**指導目標**」に書かれている力をつけることを目標に授業することが、「**指導要領で示されている力**」をつけることにつながるのです。

教材名 **きつつきの商売** リード文 **1 読む** 単元名 **場面の様子を思いうかべ、音読しよう**

指導目標 (指導書に記載)

指導目標

◎場面の様子や違いに注意しながら音読を工夫し、発表することができる。想像したことの中心を明確にし、様子がわかるように書くことができる。

・言葉には、人物の気持ちや行動を表す働きがあることに気づくことができる。


◆**読(ア・ウ、書(ア・カ、伝国(ア・イア)**

◎場面の様子や違いに注意しながら音読を工夫し、発表することができる。想像したことの中心を明確にし、様子がわかるように書くことができる。

・言葉には、人物の気持ちや行動を表す働きがあることに気づくことができる。

◆**読(ア・ウ、書(ア・カ、伝国(ア・イア)**

実際にどのように授業を組み立てていくかは、教科書の「**手引き (学習)**」に書いているので、参照しましょう。



③どの教科でも同じである!!

「国語」を例にしましたが、どの教科でも同じです。その教科で「つけるべき学力」が学習指導要領に示されており、各教材の「**単元 (指導) 目標**」とつながっています。

これを踏まえて「つけるべき学力」を明確にして授業をする—これが授業の基本です。

2、計画的・系統的・組織的に

教科書の教材は、「1年間でつけるべき学力」に基づいて、**計画的、系統的**に配列されています。

これに基づいて授業を行うことによって、子どもたちに系統的な学力が付き、「全国学力テスト」が解ける力にもつながります。各教師がバラバラなねらいで授業をしたり、単元目標をふまえないければ、学力は積み上がっていきません。学校として**組織的**に取り組むことが大切です。

そして、**研究授業**においては、「単元目標で示されている学力がついたかどうか」という視点を必ず入れて、論議することが望ましいのです。



平成31年1月
門真市教育委員会

